

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 3 月 31 日現在

機関番号：34315

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23820071

研究課題名（和文） 板木デジタルアーカイブ拡充と板木書誌学の確立

研究課題名（英文） Expanding The Digital Archive of Printing Blocks for Establishing Printing Block Bibliography

研究代表者

金子 貴昭（KANEKO TAKAAKI）

立命館大学・衣笠総合研究機構・ポスドクトラルフェロー

研究者番号：20411150

研究成果の概要（和文）：本研究では、近世出版機構における印刷の道具であり、これまでほとんど顧みられることのなかった「板木」を研究の俎上にあげるため、板木デジタルアーカイブを拡充した。研究期間終了時にデータ総件数（板木枚数）は 10,506 件となり、研究期間中に 5,193 件増大した。またそれを基盤として、板木の観察手法および板木による書誌学を確立するとともに、新たな板本観察手法も提示することができた。

研究成果の概要（英文）：There are ample numbers of printing blocks that were used after the establishment of commercial publishing in the Edo period (1603–1867). This research subject has expanded the digital archive of printing blocks aiming that they will be taken up for bibliographic studies. The digital archive includes 10,506 blocks in total, 5,193 blocks of them has been added in these fiscal years. Based on it, this research has established “Printing block Bibliography” and suggested the new way of observing printed books.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2011 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2012 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：板木・版木・近世出版・デジタルアーカイブ・出版記録

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近世は、商業出版が隆盛した時代である。したがって出版研究はもとより、近世期の各分野研究においても、多かれ少なかれ板本（はんぽん＝印刷された本）を研究資源として扱わなければならない状況に

ある。板本を客観的に分析するための手法としては「板本書誌学」の蓄積があり、これらの研究分野は、板本書誌学を基底に行われてきた。

(2) 板本を印刷するための道具であった板

木（はんぎ）は、国内だけでも十数万枚が現存しているが、これまで顧みられることはほとんどなく、整理すら行われぬままという現状があった。その原因は、黒く、嵩高く、重いという板木の性質にあった。

(3) 過年度において研究代表者は、(2)に述べた問題を克服するために、文部科学省グローバルCOEプログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ」拠点(立命館大学)、科学研究費補助金(特別研究員奨励費、課題番号 08J55612)により、奈良大学(博物館・図書館)が所蔵する板木について、フルカラーデジタル画像によるデジタルアーカイブ構築・公開を進めてきた。

(4)(3)に述べた活動をうけて、板木には板本からは分かり得ない情報を多く含むこと、それらの情報を蓄積し、板本書誌学を捉え直すための「板本書誌学」を構築することを提唱してきた。

(5) 過年度における申請者の研究は、ごく1つの機関が所蔵する板木のみを研究対象としてきたことから、客観性に欠ける点に問題があった。

## 2. 研究の目的

上述の背景に照らし、本研究においては、

- (1) 調査対象とする板木所蔵機関を増やし、板木デジタルアーカイブを拡充する
  - (2) (1)の活動を通じ、「板本書誌学」を提唱から確立の段階へ移行させる
  - (3) 近世出版機構において板木が果たした役割を考察する
- の3点を目的とした。

## 3. 研究の方法

上述の研究目的に照らし、

- (1) 株式会社法蔵館所蔵板木(約 10,000 枚)のデジタルアーカイブ構築着手
- (2) 株式会社芸艸堂所蔵板木(約 100,000 枚)のデジタルアーカイブ構築着手
- (3) 奈良大学追加収蔵板木(約 700 枚)のデジタルアーカイブ構築
- (4) 板木に対応する板本の書誌調査と、板木と板本の照合により、板本からは分かり得なかった事実を「板本書誌学」として蓄積し、学術的方法論として確立する
- (5) 現存板木に対応する出版記録の読解とデータベース構築による、近世出版における板木の役割考察

の5点を、研究課題を遂行するための方法とした。板木デジタルアーカイブ構築にあたっては、研究代表者が過年度の研究において構築した5パターンライティング手法を採用し

た。

## 4. 研究成果

(1) 株式会社法蔵館所蔵板木のデジタルアーカイブ構築に着手した。研究期間中、板木 1,014 枚のクリーニング作業・デジタル撮影を実施し、約 19,000 カットのデジタルアーカイブ構築を行った。

(2) 美術書出版株式会社 芸艸堂のデジタルアーカイブ構築に着手した。研究期間中、板木 1,141 枚のクリーニング作業・デジタル撮影を行い、約 11,361 カットのデジタルアーカイブ構築を行った。

(3) 奈良大学博物館の追加収蔵板木 677 枚のデジタル撮影を実施し、約 7,000 カットのデジタルアーカイブ構築を行った。

(4) 立命館大学アート・リサーチセンター所蔵板木 1,919 枚のデジタル撮影を実施し、約 18,400 カットのデジタルアーカイブ構築を行い、完了した。

(5) 京都大学大学院文学研究科国語国文学研究室との共同により、京都大学附属図書館所蔵板木の一部についてデジタル撮影を実施した。研究期間中、382 枚の板木を調査し、約 3,800 カットのデジタルアーカイブ構築を行った。

(6) 東京高橋家所蔵の板木 60 枚のデジタル撮影を実施し、約 580 カットのデジタルアーカイブ構築を行い、完了した。

(7)(1)～(6)のデジタル画像を観察しつつメタデータを付与し、web データベース「板木閲覧システム」(図 1、2)に登録を行った。2013 年 3 月 31 日時点で、収録する総件数(総板木枚数)を 10,506 件に拡充することができた(2012 年度 3 月末時点の公開件数は 5,475 件)。なお、本研究によってデジタル撮影を行った板木には、2013 年度以降に公開可能となるものも含まれており、公開件数は順次増加する見込みである。

板木ID	作品名	所蔵機関	収録枚数	公開状況
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...

図1 板木閲覧システム 検索結果画面



図2 板木閲覧システム 画像閲覧画面

(8) 現存板木に対応する板本の調査・収集を進めた。これらについては、デジタル撮影を行った上、立命館大学アート・リサーチセンターが運営する web データベース「書籍閲覧システム」に登録を行い、公開を進めた。板木・板本の各データベースを相互参照できるスキームを構築し、実装を行った。

(9)(1)～(8)の活動を行いつつ、板木書誌学の確立に向けて、観察結果の蓄積・考察を行った。

藤井文政堂が所蔵する享保17年版「十卷章」を例に、極めて特殊な形式の板木の利用法とその意味を考察した。従来の板本書誌学では、板木の表面に加えられる改変についての言及はあったが、板木を二枚におろし、半丁ごとに分割するという大胆な改変が行われる場合があったこと、その操作は、1組の板木で袋綴じと粘葉装の両者の摺刷に対応する目的で行われたことを明らかにすることができた。

板木の構成 1枚の板木に何丁が収められているか、どの丁がどの板木に収められているか、どのように板本に表れるかについて、実証的なデータをもとに考察を行った。結果、匡郭寸法の出現パターン、紙質の混在パターンに板木の構成が表れることを明らかにし、板木を意識した板本の新観察手法を提示することに成功した。これにより、本研究の主眼である「板木書誌学」の方法論としての確立に近づいた。

奈良大学博物館が所蔵する高野版の板木の基礎情報を調査した。その過程では、卷子本や折本を仕立ててから摺刷に及ぶ「巻き摺り」の板木が多く含まれることが判明した。さらに、板木と板本とを照合しつつ、巻き摺りの摺刷技法について考察を行った。これについては、後述の著書に論考を掲載した。

本研究を進展させつつ、過年度の研究実績の補訂を行った。

(10) 現存板木に対応する出版記録・蔵板記

録『竹苞楼大秘録』『竹苞楼広く』『蔵板記』『蔵板仕入簿』『蔵板員数』『蔵板員数帳』『板木分配帳』『文政堂蔵板目録』等についてのメタデータ構築を進めた上で、出版記録データベースの構築を進めた(非公開)。また、出版記録データベースと板木デジタルアーカイブとを連動させるスキームについても、板木デジタルアーカイブの非公開版に実装し、テストを進めた。

(11)(10)の活動を受けて、板木が近世出版機構において担っていた印刷以外の役割・機能について考察を行った。結果、板木は版權を体現する存在であり、板元間で版權をめぐる論争が起こった際には、板木が調停のツールとして働くこと、板木に一切墨を付けない「白板」の状態を取り引きすることにより、勝手に摺り置きを作らなかつたという身の潔白を証明することができたことなど、印刷の道具の範疇を超える板木の機能を指摘した。

(12) 本研究期間内に、成果公開促進費を得て、研究代表者の過年度の研究および本研究の成果の一部を含む単著『近世出版の板木研究』(2013、法蔵館)を公刊した。本書は板木をテーマとした初の研究書であり、板木という研究資源はどのようなものか、いかに活用可能であるかを、学界と社会に提示する内容である。本書の刊行により、板木デジタルアーカイブ公開と合わせ、板木を研究資源として扱う情報基盤と学術基盤を学界に提供することとなった。

(13) 本研究期間中、国際会議において2本の口頭発表を行った。このうち1本は、2013年度に Scholarly Research Communication に掲載される予定である。またこれにより、今後の海外所蔵機関の調査が視野に入った。

(14) 研究期間中、「現代に伝わる板木展」(2012年1月23日～2月10日、於：立命館大学アート・リサーチセンター)を企画・構成し、板木資料の存在と価値を江湖に知らしめた。会期中、関連イベントとして「板木・板本をめぐる研究集会」(2月5、6日)が開催され、申請者の板木デジタルアーカイブ構築の取り組みを研究者および一般に周知する機会を得た。

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

金子貴昭、藤井文政堂所蔵 享保十七年版「十卷章」の板木 袋綴じと粘葉装、論究日本文学、査読有、97、2012、pp.1-20

金子貴昭、板本に表れる板木の構成 紙質・匡郭、アート・リサーチ、査読有、12、2012、pp.33-64

[学会発表](計10件)

発表者名：金子貴昭、発表タイトル：奈良大学博物館所蔵K分類の板木について 高野版の板木、学会名等：京都俳文学研究会、発表年月日：2013年3月16日、発表場所：龍谷大学大宮キャンパス(京都府)

発表者名：金子貴昭、発表タイトル：板木デジタルアーカイブを核とした近世出版総合データベースの構築、学会名等：第2回知識・芸術・文化情報学研究会、発表年月日：2013年2月9日、発表場所：立命館大学大阪キャンパス(大阪府)

発表者名：金子貴昭、発表タイトル：板木デジタルアーカイブからわかること 板木に残るいくつかの痕跡、学会名等：立命館大学「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」ワークショップ、発表年月日：2013年2月1日、発表場所：立命館大学衣笠キャンパス(京都府)

発表者名：金子貴昭、発表タイトル：立命館大学アート・リサーチセンターのデジタルアーカイブ活動 特に板木デジタルアーカイブについて、学会名等：大学図書館問題研究会京都ワンディセミナー、発表年月日：2012年12月15日、発表場所：立命館大学末川記念会館(京都府)

発表者名：金子貴昭、発表タイトル：近世出版の根本装置『板木』 板木による書誌学の構築、学会名等：第16回ライスボールセミナー、発表年月日：2012年11月6日、発表場所：立命館大学衣笠キャンパス(京都府)

発表者名：金子貴昭、発表タイトル：板木を意識して板本を観る 付・板木デジタルアーカイブの紹介、学会名等：板木・板本をめぐる研究集会、発表年月日：2012年2月5日、立命館大学衣笠キャンパス(京都府)

発表者名：Takaaki Kaneko、発表タイトル：Construction of a Printing Block Digital Archive and its Use in Studies of Early Modern Publishing、学会名等：The 2nd International Symposium on Digital Humanities for Japanese Arts and Cultures、

発表年月日：2011年11月20日、発表場所：立命館大学衣笠キャンパス(京都府)

発表者名：Takaaki Kaneko、発表タイトル：Digital Archiving of Printing Blocks and Bibliography Based on It、学会名等：INKE Research Foundations for Understanding Books and Reading in a Digital Age: Text and Beyond、発表年月日：2011年11月18日、発表場所：立命館大学衣笠キャンパス(京都府)

発表者名：金子貴昭、発表タイトル：近世出版における板木の役割 「白板」の機能、学会名等：日本出版学会2011年度秋季研究発表会、発表年月日：2011年11月5日、発表場所：中京大学名古屋キャンパス(愛知県)

発表者名：金子貴昭、発表タイトル：研究資源として板木を活用する 板木書誌学の構築、第2985回立命館土曜講座、発表年月日：2011年7月23日、発表場所：立命館大学衣笠キャンパス(京都府)

[図書](計1件)

著者名：金子貴昭、出版社名：法蔵館、書名：近世出版の板木研究、発行年：2013、総ページ数：318

[その他]

板木閲覧システム

<http://www.arc.ritsumeit.ac.jp/db9/hangi/>

書籍閲覧システム

<http://www.arc.ritsumeit.ac.jp/db1/books/search.html>

現代に伝わる板木展

<http://www.arc.ritsumeit.ac.jp/lib/GCOE/2012/hangi/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金子 貴昭 (KANEKO TAKAAKI)

立命館大学・衣笠総合研究機構・ポスドクトラルフェロー

研究者番号：20411150

(2) 研究分担者

なし ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ( )

研究者番号：